

平成26年度青少年活動交流センター事業評価表

区分	No.	事業名	目的	事業概要（期日、参加者、内容等）	事業評価			総合評価	今後の事業方針
					必要性 (30)	達成度 (50)	効率性 (20)		
(1) 活動	1	いわて親子・家庭フォーラム	青少年の健全な育成・成長に果たすべき第一義的な責任は、家庭・保護者であり、家庭における対話やふれあいが重要であることについて啓発するとともに、地域全体で子育てを行う機運を醸成する。	子育て、家庭教育、親子の対話等をテーマとする講演を中心とするセミナー及び親子や家族で楽しみ、ふれあいを深めるイベントを県内2か所で開催。 (1) 子ども・家庭・地域に関する交流セミナー ※沿岸南部教育事務所フォーラム家庭教育と併催 ・期日・会場：平成26年8月24日（日）住田町 ・参加者：育成指導者等 120名 ・内 容：分科会、全体会 ※アンケート結果別紙参照 (2) いわて親子フェスティバル ※県民活動交流センター ・期日・会場：平成26年10月5日（日） ・親子等 2,200名 ・内 容：・工作教室 ・工作ショウ ・親子エコクッキング ・体験コーナー ・活動発表（盛岡二高マンドリン・ギター部）	A (30)	A (50)	A (20)	A (100)	(1) について 地域の教育振興運動関係事業や自治体との協働実施を行いたい。 (2) について アイーナ入居団体等と連携・協働して、引き続き親子で参加できるイベントとして継続して実施したい。 さらに、市町村民会議や青少年団体と連携し、地方開催についても検討したい。
	2	青少年健全育成のための地域による情報メディア対応促進事業	インターネット・スマートフォン等の正しい利用について、地域における取組実態を把握し、必要な研修講座を関係機関との連携により行うとともに、地域での周知・啓発事業の実施に結び付くモデル開発を進めることにより、地域での主体的な取組を促進し、青少年の健全育成を推進す	(1) 地域による情報メディア対応事業実施状況調査 (2) 地域によるメディア対応講座コーディネート ・情報メディア対応指導者研修会 ・情報メディア対応力養成講座（4地区） 沿岸地区（11/6）、県央地区（11/10）、県北地区（11/17）、 県南地区（11/20） 内容：各警察署少年担当から地域の現状報告、実技演習 ・情報メディア「出前」講座（5回） (3) 地域によるメディア対応モデル開発	（事業実施中）				26年度実施結果を踏まえ、ニーズに対応した内容により継続して実施することとしたい。
(2) 交流	3	いわて希望塾	市町村の枠を越えた交流活動や「本格復興」についての意見交換などからの学びにより、自らと地域を見つめ直し、積極的に岩手の地域づくりを担おうとする、心豊かで意欲に満ちた人材を育成する。	中学生を対象とし、集合研修（合宿研修）を通じ、積極性、協調性を養成するとともに、地域づくり活動に関わるプログラムを各市町村と連携して実施することにより、継続的な地域づくり活動への参画を促した。 11月1日（土）～3日（月）国立岩手山青少年交流の家 参加者：塾生（中学生）191名・青年サポーター25名 内 容：①復興支援活動について ②テーマ別ディスカッション「未来へのヒント部屋」 ③ワークショップ「自分たちにできることを考える」 ④塾長メッセージ（岩手県知事）、塾長との対話 ⑤講演「私たちにできること」 ⑥未来への宣言（全体発表）・ふりかえり	A (30)	A (50)	A (20)	A (100)	内容を充実させ、継続して実施することとしたい。（27年度は復興支援のため、沿岸部において実施予定。） また、ボランティア養成も兼ね、引き続き県内5大学に対して、青年サポーターへの参加を呼び掛ける。

区分	No.	事業名	目的	事業概要（期日、参加者、内容等）	事業評価			総合評価	今後の事業方針
					必要性 (30)	達成度 (50)	効率性 (20)		
(3) 情報	4	青少年ボランティア活動の促進	希望塾の青年コーディネーター等のセンター事業への参加や、県教委の主催するボランティア育成事業への参加者が、相互に交流することにより、ボランティア活動の活発化を促進する。	期 日：通年 内 容：いわて希望塾青年サポーター（25名）の事前打合せ、いわて親子フェスティバルのボランティア（67名）による企画会議（5回）及び実行委員会（3回）の開催など事業を通じた研修や交流を行い、ボランティア相互のネットワーク形成の機会を設定した。 参加者：県内に在住するおおむね16歳～30歳の青少年 年間登録ボランティア（32名）を含め延べ124名	A (30)	A (50)	A (20)	A (100)	募集の働きかけを強めるとともに、事業を通じた研修の実施やボランティア相互のネットワーク形成など、内容を充実させて実施することとしたい。
	5	青少年健全育成広報事業	青少年健全育成の県民運動を推進するため、県民に対する青少年健全育成の意識啓発を図る。	青少年活動交流センターにおける各種事業の実施や青少年育成活動の先進的取組み等に係る様々な情報について、次の方法により広報活動を行った。 ① 広報紙 「青少年いわて」（各号2,500部、7月、10月、1月、3月） ② インターネットによる広報 (http://www.aiina.jp/seishounen/) アクセス数29,784件、情報発信日数：150日、ツイッターフォロワー648名、フェイスブック友達222名（平成26年12月末日現在） ③ 青少年健全育成県民運動啓発用、「いわて家庭の日」啓発用電子版「いわて家庭の日」各市町村等 12回（毎月1回） ④ 街頭広報啓発活動（1回）いわて家庭の日・相談室PRカード配布600部 ⑤ 「わたしの主張岩手県大会」発表文集 570部（配布先：市町村教育委員会、全中学校等） ⑥ 「いわて希望塾」事業報告書 400部（配布先：市町村教育委員会、参加中学校等）	A (30)	B (30)	B (10)	B (70)	広報紙やホームページ等の内容を充実させ、継続して実施することとしたい。
(4) 相談	6	相談事業 (1) 青少年なやみ相談室の運営	青少年やその家族等が抱える様々な問題等の解決に資するため、青少年及びその家族等からの相談に応じるとともに、青少年活動に関する情報提供を行う。	非常勤の相談員3名により、青少年の悩み、青少年を取り巻く家族等の悩みや青少年活動に関する電話、面接及びメールによる相談を行った。 電話相談：418件（県外24件）、面接相談：6件（県外0件）、メール相談：35件（県外2件）合計459件（26年12月末日現在） 相談時間 9:00～16:00（月・木のみ9:00～20:00）	A (30)	B (30)	A (20)	A (80)	継続して実施することとしたい。 相談室の周知のため、中・高校へのPRを行うほか、保護者の需要に対応するためPTA連合会等の協力を得て保護者への周知を図る。
		(2) 青少年相談事例検討会の開催	県内の関係相談機関における相談事例の検討を行うことにより、相談関係者の指導力の向上及び相談関係機関の連携の推進を図り、青少年の健全な育成に資する。	相談員間の事例に関する情報共有及び事例検討の機会を確保するとともに、相談スキルを向上させるため、他相談機関の相談職員をも対象とした事例検討会を行った。 第1回 8月22日（木） アイーナ8階 810研修室 参加者：相談機関の相談関係者等17名（盛岡少年鑑別所、県警本部少年課、県福祉総合相談センター、盛岡市少年センター、岩手県国際交流協会等） 第2回 平成27年1月29日（木） アイーナ8階 810研修室 参加者：相談機関の相談関係者等18名（盛岡少年鑑別所、県警本部少年課、県福祉総合相談センター、もりおか若者サポートステーション等）	A (30)	B (30)	B (10)	B (70)	継続して実施することとしたい。 実施に当たっては、事例検討による相談対応能力を向上させるほか、相談機関相互の連携を図ることにより相談体制の強化を図る。

区分	No.	事業名	目的	事業概要（期日、参加者、内容等）	事業評価			総合評価	今後の事業方針
					必要性 (30)	達成度 (50)	効率性 (20)		
(5) 自主	活動	7 地域のしごと学講座	青少年の職業や社会性を養い、職業や社会の仕組みに関する理解を深めるため、アイーナ館内及び近隣事業所等を対象とする見学や職業体験、社会人との対話を内容とする講座を行う。	(1) アイーナで、学ぼう2014 9月6日（日） 参加者：親子12名 内容：アイーナ館内職場体験、エコ活動、震災・防災・減災学習 (2) おしごと発見ツアー2015 平成27年1月8日（木） 参加者：小学生 17名 内容：イオン成田店 佐々長醸造の職場見学 働く方との対話	A (30)	B (30)	A (20)	A (80)	参加者の満足度が高いが、事業の位置づけを明確にして実施を検討したい。
		8 青少年体験講座 「子どもの食事づくりワークショップ（みんなのクッキング）」	子ども達が調理を通じてマナーや家族の一員として積極的に家事を担う役割意識を学び、他者を思いやる心を養うとともに、働く母親の仕事と家庭の両立を支援する。	「子どもの食事づくりワークショップ（みんなのクッキング）」 ※男女共同参画センターと共催 小学生を主な対象とする講座において、調理など家事を手伝う積極性やマナーを学び、また、協力することの大切さや他者を思いやる心を養った。 7月5日（土） アイーナ6階 調理実習室 参加者：親子19名 内容：ランチやデザートなどの食事作り、参加者の会食・交流	B (20)	B (30)	A (20)	B (70)	
	9 国際理解・協力推進事業 （国際交流シンポジウム）	国際的視野と国際協調の精神を身につけた青少年を育成する。	県内に在住の外国青年を講師として招き、調理を通じて各国の文化や食習慣などを学び合う交流会を開催する。 3月 日（日） アイーナ ※岩手県青年国際交流機構と共催 内容：テーマ 県内在住外国青年との料理づくり・試食（茶話会）・自由交流 参加者：親子等 名（講師：県内在住の外国人 人）	(3月事業実施予定)			【目標値（募集）】 参加者30名 【実績】 () 名	人件費を除く費用 (0円)	26年度実施結果を踏まえ、内容を検討のうえ実施することとしたい。
交流	10 災害復興支援事業 復興バザー	東日本大震災の被災者支援及び県民とアイーナの絆づくりを行う。	ボランティアの参加（売り子等）を得て、アイーナ入居の各センター連携事業として実施した。 内容：アイーナ4階県民プラザにおいて、アイーナブース（アイーナ職員供出物品の販売）を設置、個人・福祉施設出店、被災地からの出店販売 第9回 6月15日（日） 参加者約500名（売上金額 112,462円） 第10回 10月5日（日） 参加者約500名（売上金額 85,655円） なお、バザーの売り上げ金198,117円は、全額岩手県災害義援金募集委員会に寄附した。	A (30)	A (50)	A (20)	A (100)	内容を充実させ、継続して実施することとしたい。 特に、被災地の特産品や被災地住民の手作り品等の販売の場を提供すること等により、被災地の理解促進と復興の支援を図る。	
						人件費を除く費用 (0円)			